

題 材 名	オリジナル製品の設計													
内容・項目	A－(1) イ, (2) ア イ													
指導時間	6時間													
題材のねらい (題材の特徴)	<p>リデュースの大切さを知らせ、製品のライフサイクルの中での使用期間をできるだけ長くすることによって廃棄物の量を減らすことが、環境に対する負荷を軽減させることにつながるということを考えさせる。使用目的や使用条件だけでなく、使用する場所(空間)との形状的・色彩的調和を意識することで、長期使用を可能とするような設計を行う。</p>													
学習の流れ (展開の工夫)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>指導項目</th> <th>主な指導内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・ものづくりと環境</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりと3Rとの関連について考える。</li> <li>・製品を長期使用するために必要な要因を考える。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>・機能と構造や空間との調和を考慮した製品の構想</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品の機能と構造について検討しながら、使用する空間との形状的・色彩的調和も考慮しながら構想する。 (課題の解決的場面)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・製作図の作製</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・等角図やキャビネット図など、適切な表示方法を用いて製作図を描く。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 着色の異なる同じ作品例を準備し、それを単体で撮影した写真と、室内空間に置いて撮影した写真を比較させることによって、製品を単体で考えるのではなく使用する空間との調和を考えさせるようにする。</p>		時間	指導項目	主な指導内容	1	・ものづくりと環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりと3Rとの関連について考える。</li> <li>・製品を長期使用するために必要な要因を考える。</li> </ul>	2	・機能と構造や空間との調和を考慮した製品の構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品の機能と構造について検討しながら、使用する空間との形状的・色彩的調和も考慮しながら構想する。 (課題の解決的場面)</li> </ul>	3	・製作図の作製	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等角図やキャビネット図など、適切な表示方法を用いて製作図を描く。</li> </ul>
時間	指導項目	主な指導内容												
1	・ものづくりと環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりと3Rとの関連について考える。</li> <li>・製品を長期使用するために必要な要因を考える。</li> </ul>												
2	・機能と構造や空間との調和を考慮した製品の構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品の機能と構造について検討しながら、使用する空間との形状的・色彩的調和も考慮しながら構想する。 (課題の解決的場面)</li> </ul>												
3	・製作図の作製	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等角図やキャビネット図など、適切な表示方法を用いて製作図を描く。</li> </ul>												
準備・材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品例(着色が異なる同一作品)</li> <li>・作品例写真(単体で撮影したもの、室内空間に置いて撮影したもの)</li> <li>・ワークシート</li> </ul>													